

まめにばらばらおしゃべり

“おなご先生”の独り言の診察室

(73)

りびえするの読者の皆さん、まめにしておられますか。5月も下旬になりましたが、暑はいけぬ日や肌寒い日があり、体調に気を付けねばいけませんね。さて、関東地方を中心に10〜20代の麻疹(はしか)がはやちちよります。そこで今回は、麻疹は、ワクチンの予防接種が大事だよ”の巻。

麻疹は、麻疹ウイルスに感染することで発症する病気です。小児はもろろん成人もかかり、麻疹に対する抗体を持っている場合はかかりません。小児では1歳代の罹患(りかん)率が最も高く、次いで6〜11カ月、2歳の順です。

くしゃみやせきなどでウイルスが飛び散ってうつりますが、感染力が非常に強力です。潜伏期間は9〜11日間。伝染期間は発病1〜2日前から発疹出現後4〜5日までと結構長いので、知らない間に患者と接触し、かかっていたというケースもあります。

症状はカタル期(発症から3〜5日間)、発疹期(4〜5日)、回復期に分かれます。▽カタル期は38度前後の発熱、鼻汁、乾いた咳、眼結膜充血、目やになどがあります。これらの症状は風邪でも見受けられるため注意が必要

です。カタル期の後半から口の中に麻疹特有のコプリック斑(赤みを伴った白い粟状の斑点)が出現します。

▽発疹期は4日目くらいに一度解熱します。しかし、半日〜1日で再び発熱し、その後、赤い小斑状発疹が耳の後ろ、顔面、首から始め、やがて体幹、四肢へと広がっていきます。3〜4日間

“麻疹(はしか)は、ワクチンの予防接種が大事だよ”の巻

は高熱と咳が続きます。▽回復期は解熱するころには発疹の色も出現した順に黒ずんで消えていきます。痒みはありません。麻疹からの合併症は気管支炎、肺炎、中耳炎、咽

喉頭炎、血小板減少性紫斑病、DIC(血管播種性凝固症候群)、成人では角膜炎、間質性肺炎、急性散在性脳脊髄膜炎、聴力障害とさまざまです。これだけでも恐ろしいのですが、1000人〜2

000人に1人の割合で麻疹脳炎が生じてしまうことがあります。麻疹脳炎の死亡率は10%と高率で、約65%以後遺症が残るとされる恐ろしい病気です。また遅発性合併症とし

て、麻疹にかかってから約10年を経て発症する亜急性硬化性全脳炎(SSPE)があります。これは10万人に1人くらい発症するまれな合併症で、知能障害を伴い運動障害、ミオクローヌスなどを生じて発症後6〜9カ月で死に至る進行性の予後不良な合併症です。



さて、麻疹の予防といえばワクチンに勝るものはありません。生後12〜15カ月くらいの間に1期、5〜6歳就学までに2期と2回の接種が望まれます。ただし麻疹の流行期には生後10カ月くらいから接種されてもいでしょう。その場合は1年後を目安に再度ワクチン接種をしましょう。

最近、成人に麻疹が流行していますが、これは子どものときにワクチン接種をされていない方が多いとの報告もあります。とにかく麻疹の抗体がない方は、予防接種をされることが一番です。

療は、対症療法が中心となります。合併症を予防するための抗生剤投与などはしますが全身管理が主で、状態が良くない場合は入院となります。しっかりと水分を取って脱水を予防、消化のよい食品を取り、安静を保つことが大切です。

万が一、抗体が無い方が麻疹患者と接触してしまった場合は、接触後3日以内にγグロブリン製剤の注射をすると発症予防または発症してしまっても症状が軽減できるとの報告があります。γグロブリン接種後、3〜6カ月後にワクチン接種するとういでしょう。接触後緊急にワクチンを接種する方法もありますが、間に合わない場合が多々あります。

とにかく発症したら、早急に病院で受診し対応を相談することが必要です。

(いんべ杉谷内科小児科 松江市東急部町)